

VII 自由意見まとめ

1 区民向け調査

問 34 あなたが男女平等・男女共同参画の推進について、日頃感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

【回答数内訳】

(件)

カテゴリ名	男性	女性	どちらとも いえない/ 不明	合計
(1) 男女平等について	9	14	1	24
(2) 女性優遇反対について	5	8	0	13
(3) LGBTQについて	5	4	0	9
(4) ジェンダー強調について	0	6	0	6
(5) 男女共同参画について	1	3	0	4
(6) 男女の決められた役割について	1	1	0	2
(7) その他	7	13	1	21
合計	28	49	2	79

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

■主な意見

(1) 男女平等について (24件)

男女平等の重要性を認めつつ「能力に基づく公平性」や「女性優遇への懸念」が目立ち、双方が思いやり支え合う社会の必要性を求める意見がみられました。

- 女性であること、男性であることの基本からすべてが平等ではなく、平等として出来ることは何かをもっと考えて能力での平等が必要ではと思う。(4件)
- 男女平等と女性優遇を混同して考えるべきではない。性別ではなく、その人間の本質を見極めるべき。(4件)
- 男女平等は大事。しかし男性ばかりが肩身のせまい思いをしている。男女ともに、相手を思いやる気持ちが一番大事。(3件)
- 男女で明確にできること・できないことが存在するが、それを個人が、家族が、隣近所が、市区町村が、互いに支えあう社会を目指さないといけない。(3件)

(2) 女性優遇反対について (13件)

女性優遇による逆差別への懸念、急速な女性登用が男性の評価機会を損なう不公平感、実力本位の選抜を求める意見がみられました。

- 男女平等をうたいながら、女性のみを優遇する施策(例：産休の優遇や逆に不平等な扱い)により、実質的な逆差別が起きている。(3件)
- 女性の急激な昇進や、役職での女性優遇策が、男性の出世機会や実力評価を損ね、結果として不公平な状況を招いている。(5件)
- 男女共同や性別に基づく目標に頼るのではなく、能力ややる気など実力に基づいた選抜が本来の平等だと思う。(4件)

(3) LGBTQについて (9件)

LGBTQの啓蒙を求める声と、支援や啓発がLGBTQに偏り過ぎず、バランスある取組を求める意見がみられました。

- レインボーパレード等、メディアがもっとLGBTQをとりあげるべき。(2件)
- 男性、女性、LGBTQのすべてを平等に扱い支援するのではなく、LGBTQに対する啓蒙だけに傾倒しすぎていると感じる機会が多い。(4件)

(4) ジェンダー強調について (6件)

女性の就労・復職を支える社会的仕組みの強化と、女性が役職へ育つための支援・スポンサー制度の必要性を指摘し、環境整備を求める意見がみられました。

- 夫婦共働きがあたりまえの世の中で、女性の社会進出がさらに広がってきている。その中で、あらゆる面で女性の意見を広めることが重要である。家庭や職場、社会全体が女性の勤務・復職を支援する合理的なシステムを構築する必要がある。(2件)
- どのような組織でも、役職の女性を増やそうとすると『成熟した女性がいらない』と言われるが、男性には未熟でも支援やスポンサーがついて育てられる仕組みがある。女性にもスポンサーをつけ、支援が評判や評価につながる仕組みが必要だと思う。(3件)

(5) 男女共同参画について (4件)

男女平等の理念には賛同しつつも、近年の過度な推進や押し付けへの違和感や懸念があるという意見がみられました。

- 男女平等は確かに重要で、個々人のやりたいことが性差によってのみ制限されるべきではない。しかし、昨今は男女平等を過剰押し付け、推進する動きが著しく、それについては問題と考える。(4件)

(6) 男女の決められた役割について (2件)

地域や家族の支え合いが弱まることで、一般市民が不利益を受け、社会の持続性が危うくなるとの意見がみられました。

- 個人や家族、地域が互いに支え合う社会を構築しなければ、一般人が不利益を被り、社会全体が崩れていくという現状がある。(2件)

2 青少年向け調査

問 25 あなたがジェンダー平等や男女共同参画について、日頃感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

【回答数内訳】

(件)

カテゴリ名	男性	女性	どちらとも いえない	合計
(1) LGBTQについて	8	8	1	17
(2) 男女平等について	6	10	1	17
(3) 女性優遇反対について	2	8	1	11
(4) 学校対応について	5	5	0	10
(5) ジェンダー強調について	2	5	1	8
(6) 男女の決められた役割について	4	1	0	5
(7) 男女共同参画について	0	3	0	3
(8) その他	3	1	0	4
合計	30	41	4	75

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

【主な意見】

(1) LGBTQについて (17件)

ジェンダー平等の推進や多様性尊重を求める声が多い一方、トイレやスポーツなどで多数派が生きにくいなど、共生の在り方に関する意見がみられました。

- 古くから根付いている男尊女卑という考え方は、人々が意識的にジェンダー平等と変えようとしても、なかなか無意識のうちに差別をしていることがあると保健の授業で学んだ。LGBTQの方々がそのことを隠さずに笑顔で生きていくことのできる社会を目指して私もこれから社会に貢献していきたいと考えている。(6件)
- 生まれつきトランスジェンダーの人はそれが当たり前。それを否定する必要はない。「互いの『当たり前』を否定しない社会」を目指すべき。(4件)
- 最近、ジェンダー平等の問題があるが、マイノリティを守るために、マジョリティが生きにくい世の中になっていると思う。例えば「トイレの問題」や「スポーツの問題」で矛盾を感じることもある。(3件)

(2) 男女平等について (17件)

性別により役割が決められることへの違和感から、個々の尊重や自由な関係性の重要性を強調している一方、一部の社会や職業分野では依然として男女格差が残るとの意見がみられました。

- 人の個性（性に限らず）を広い目でしっかり見ることで、ジェンダー、男、女などせまい言葉や常識にとらわれず、「その人を尊重したい」「お互い自由な状態で思いやれる」関係を築けると思う。(6件)
- 「男は仕事、女は家事」、「男は泣かない」、「女の子なんだから〇〇しなさい」と祖父母が言う時、私は男性と女性の扱いの良し悪しを感じる瞬間だと思う。男性に有利な社会からは少しずつ抜け出せているけれど、職業というくくりで見ると、まだ変化は大きくないと感じている。(3件)

(3) 女性優遇反対について (11件)

男女優遇への不公平感や、女性尊重が行き過ぎて男性が不利になるとの懸念が多く、双方が息苦しくない公平な制度を求める意見がみられました。

- 男女平等と言いながら女子枠を設けるのは不公平であり、男性より女性を優位に扱っている。このような制度は廃止すべき。(6件)
- 女性尊重が行き過ぎて、男性が劣位になる状況が広がっている。男女ともが息苦しくない社会を目指してほしい。(3件)

(4) 学校対応について (10件)

別学在校生が回答しづらい設問設計への改善要望と、多様な性のあり方を尊重し誰もが安心して生きられる社会を望む意見がみられました。

- 男子校や女子校では性別による役割分担がない学校生活をしているので、共学校前提のアンケート内容だと適切に答えられない。別学に通う人向けの選択肢も必要だと思う。(5件)
- L G B T Qの方々がそのことを隠さずに笑顔で生きていくことのできる社会を目指して私もこれから社会に貢献していきたいと考えている。(3件)

(5) ジェンダー強調について (8件)

過度なジェンダー平等・LGBTQ重視が萎縮や不公平感を生み、社会や娯楽への影響が懸念されるため、教育やバランスある対応を求めるといった意見がみられました。

- ジェンダー平等を意識しすぎて、それが逆に差別みたいになっている。発言しづらい社会になっているのではないかと思う。もう少し教育に力を入れても良いのではないか。(6件)
- LGBTQやジェンダー平等に配慮することは重要だが、過剰に重視しすぎるとエンターテインメント業界や人々の生活に悪影響を及ぼす。バランスの取れた対応が必要だと思う。(2件)

(6) 男女の決められた役割について (5件)

男女の役割分担は本来、身体的・能力的特性に基づくもので差別とは異なるため、思い込みによる差別の連鎖を避けるためにも一定の役割分担は必要だとする意見がみられました。

- 昔の「男は仕事、女は家庭」といった役割分担は、男性の身体的能力や女性の手先の器用さに基づいていた。能力に基づく区別は差別とは違い、後世の思い込みによる差別の連鎖を防ぐためにも適切な役割分担が必要だと思う。(3件)

(7) 男女共同参画について (3件)

家庭内の家事・介護負担が依然として女性に偏り、理念と実態が乖離しており、政治や地域では男性の意識改革が必要との意見がみられました。

- 男女共同参画社会を掲げているが、実際の家庭では女性が家事や介護を担う状況が多く、家庭内ではその理念が行き届いていない。また、政治や地方での男性の意識改革が必要だと感じる。(2件)

3 事業所向け調査

問 28 貴事業所が男女平等・男女共同参画の推進について、日頃感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。

【回答数内訳】

(件)

カテゴリ名	合計
(1) 国の制度への不満について	6
(2) 中小企業における制度実施の難しさや課題について	5
(3) 職場環境や業務効率化等の改善について	5
(4) その他	4
合計	20

※1人の回答につき、複数の項目にわたる意見がある場合はそれぞれの項目で計上している。

■主な意見

(1) 国の制度への不満について (6件)

育休やワーク・ライフ・バランスの助成不足や申請の煩雑さへの不満と、女性の多様な声が政策に十分反映されていないとの意見がみられました。

- 国が育児休業やワーク・ライフ・バランスを推進しているのは良いが、助成金が少なく申請条件も厳しくて煩雑すぎる。導入する企業への援助や申請の簡略化をもっと進めてほしい。(3件)
- 女性からの声(年代別)をもっと取り入れる必要がある。一部の知識人とかキャリア女性ばかりの声が反映されているように感じる。(2件)

(2) 中小企業における制度実施の難しさや課題について (5件)

零細・小規模企業では人手不足と代替要員確保の困難さから育休取得や働きやすい環境が整備されておらず、経営者や40代以上の意識改革も進んでいないことから、理想とのギャップに悩む意見がみられました。

- 零細企業は社員の雇用維持が精一杯で、次世代雇用や働きやすい環境の両立が難しい。40代以上の意識を変えるには啓発やセミナーの継続が必要で、経営者の意識改革も重要だが、現実には理想とのギャップに悩んでいる。(2件)
- 育児休暇を実践したくても、小規模では代替要員確保が困難で、人手不足や人件費の高騰も課題。景気が良くなれば可能性もあるが、企業に余力がない現状では厳しい。(2件)

(3) 職場環境や業務効率化等の改善について（5件）

育児と仕事の両立を支える環境整備を重視し、通勤動線で利用しやすい保育や、性別を問わない育児支援制度の強化、介護との両立を含む個別支援が必要との意見がみられました。

- 保育所を通勤途中で利用できるなど、時間や体力の負担に配慮した施策を進めてほしい。金を配るだけではなく、長期的に育児と仕事を両立しやすい社会を目指してほしい。（2件）
- 管理職の女性比率向上については、人材市場における女性の少なさが課題。業界や行政が一体となって取り組む必要性を感じる。男性育休取得者も急増しており、両立の課題把握やロールモデル認知、性別に関係なく両立できるための制度整備が必要。さらに、介護両立に悩む社員も増えており、個別性の高いサポートが重要。（3件）

